

GSグローバル・ビッグデータ投資戦略
隔月決算コース(為替ヘッジなし)

償還日(2022年7月27日)	第17期～第19期		
償還価額	12,076.01円	騰落率	4.25%
純資産総額	82百万円	分配金合計	220円

(注)騰落率は収益分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

■本ファンドの仕組みは次のとおりです。

商品分類	追加型投信／内外／株式
信託期間	2022年7月27日(繰上償還日)まで
運用方針	主として日本を含む先進国の株式を主要投資対象とし、計量分析を用いて投資対象のリターン予測を行うと同時にポートフォリオのリスク・リターン特性の最適化プロセスを経ることによりリスク管理を行う投資信託証券への投資を通じ、信託財産の長期的な成長をめざして運用を行います。
主要投資対象	
本ファンド	以下の指定投資信託証券を主要投資対象とします。 ・ルクセンブルク籍外国投資証券 ゴールドマン・サックス・ファンズ S. I. C. A. V. ①ゴールドマン・サックス・グローバルCO REエクイティ・ポートフォリオ ・アイルランド籍外国投資証券 ゴールドマン・サックス・ファンズ・ピーエルシー ②ゴールドマン・サックスUS\$リキッド・リザーブズ・ファンド
指定投資信託証券①	日本を含む先進国の株式および株式関連証券
指定投資信託証券②	米ドル建ての短期の市場性を有する金融市場証券
運用方法・組入制限	①外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジは行いません。 ②投資信託証券への投資は、高位に維持することを基本とします。 ③株式への直接投資は行いません。
分配方針	原則として毎計算期末(毎年1月、3月、5月、7月、9月、11月の各10日。休業日の場合は翌営業日。)に収益の分配を行います。投信会社が経費控除後の利子・配当等収益および売買損益(評価損益を含みます。)等の中から基準価額水準、市場動向等を勘案して分配金を決定します。

追加型投信／内外／株式

第17期(決算日2022年5月10日)

第18期(決算日2022年7月11日)

第19期(信託終了日2022年7月27日)

作成対象期間:2022年3月11日～2022年7月27日

受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。さて、「GSグローバル・ビッグデータ投資戦略 隔月決算コース(為替ヘッジなし)」は、日本を含む先進国の株式を主な投資対象とし、ビッグデータやAI(人工知能)を活用した独自開発の計量モデルを用いて多様な銘柄評価基準に基づいて幅広い銘柄に分散投資することにより、信託財産の長期的な成長をめざして運用を行ってまいりましたが、2022年7月27日に償還いたしました。ここに謹んで運用経過と償還内容をご報告申し上げますとともに、受益者の皆様のご愛顧に対しまして、厚く御礼申し上げます。

ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント

〒106-6147 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー

お問合せ先: 03-6437-6000(代表)

受付時間: 営業日の午前9時～午後5時 | www.gsam.co.jp

■設定以来の運用実績

期	決算期	基準価額 (分配額)	税引前 分配金	期騰落 中率	参考指標	期騰落 中率	投資信託証券 比率	純資産 総額
①	(設定日) 2019年6月14日	10,000	—	—	10,000	—	—	10
	1期(2019年9月10日)	10,012	0	0.1	10,106	1.1	99.3	14
②	2期(2019年11月11日)	10,364	100	4.5	10,749	6.4	98.9	14
	3期(2020年1月10日)	10,817	100	5.3	11,344	5.5	98.7	19
③	4期(2020年3月10日)	8,647	100	△19.1	8,926	△21.3	99.3	19
	5期(2020年5月11日)	8,774	100	2.6	9,610	7.7	98.0	20
	6期(2020年7月10日)	9,763	100	12.4	10,560	9.9	99.2	19
④	7期(2020年9月10日)	10,021	100	3.7	11,196	6.0	98.9	19
	8期(2020年11月10日)	10,424	100	5.0	11,637	3.9	99.3	23
⑤	9期(2021年1月12日)	10,978	100	6.3	12,590	8.2	99.0	28
	10期(2021年3月10日)	11,437	100	5.1	13,312	5.7	99.5	34
⑥	11期(2021年5月10日)	12,261	120	8.3	14,378	8.0	99.1	43
	12期(2021年7月12日)	12,585	120	3.6	14,986	4.2	100.9	68
⑦	13期(2021年9月10日)	12,942	130	3.9	15,383	2.7	99.7	78
	14期(2021年11月10日)	13,180	130	2.8	16,312	6.0	98.0	81
	15期(2022年1月11日)	12,996	130	△0.4	16,336	0.1	97.8	95
⑧	16期(2022年3月10日)	11,791	120	△8.3	14,992	△8.2	98.0	90
	17期(2022年5月10日)	12,520	120	7.2	15,724	4.9	98.5	111
⑨	18期(2022年7月11日)	12,127	100	△2.3	16,026	1.9	96.7	82
	(償還日) 2022年7月27日	(償還価額) 12,076.01		△0.4	16,220	1.2	—	82

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注2) 参考指標 (MSCIワールド・インデックス (円ベース)) は、2019年6月14日を10,000として指数化しております。

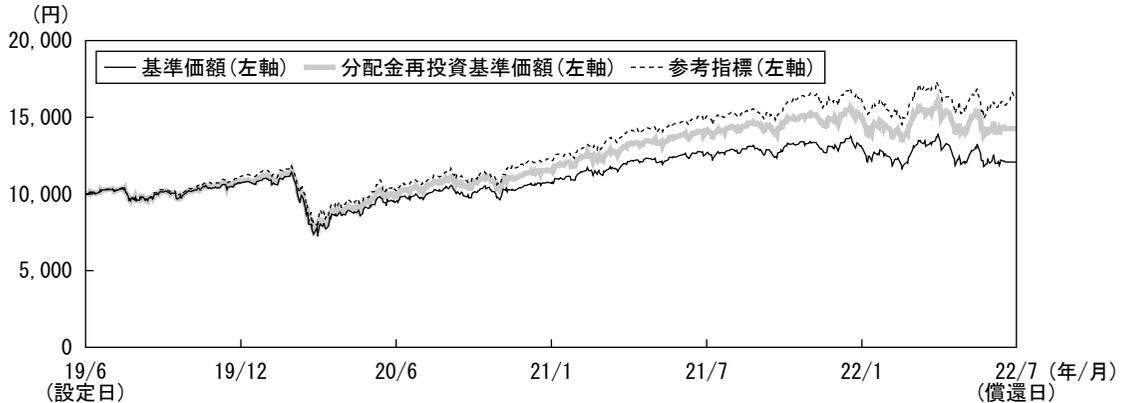
■当作成期中の基準価額と市況推移

期	決算期	年 月 日	基準価額	騰落率	参考指標	騰落率	投資信託証券 比率
第17期		(期首) 2022年3月10日	11,791	—	14,992	—	98.0
		3月末	13,494	14.4	17,001	13.4	97.8
		4月末	12,981	10.1	16,892	12.7	98.4
		(期末) 2022年5月10日	12,640	7.2	15,724	4.9	98.5
第18期		(期首) 2022年5月10日	12,520	—	15,724	—	98.5
		5月末	12,602	0.7	16,227	3.2	98.3
		6月末	12,296	△1.8	15,930	1.3	98.2
第19期		(期末) 2022年7月11日	12,227	△2.3	16,026	1.9	96.7
		(期首) 2022年7月11日	12,127	—	16,026	—	96.7
第19期		(償還日) 2022年7月27日	(償還価額) 12,076.01	△0.4	16,220	1.2	—

(注1) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比です。

(注2) 参考指標 (MSCIワールド・インデックス (円ベース)) は、2019年6月14日を10,000として指数化しております。

■設定以来の基準価額等の推移について（2019年6月14日～2022年7月27日）



- (注1) 参考指標は、MSCIワールド・インデックス（円ベース）であり、投資対象資産の市場動向を説明する代表的な指数として記載しています。
- (注2) 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注3) 実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。
- (注4) 分配金再投資基準価額、参考指標は、当作成期（以下、「当期」といいます。）の期首の基準価額を起点として指数化しています。

■第16期までの運用状況（2019年6月14日～2022年3月10日）

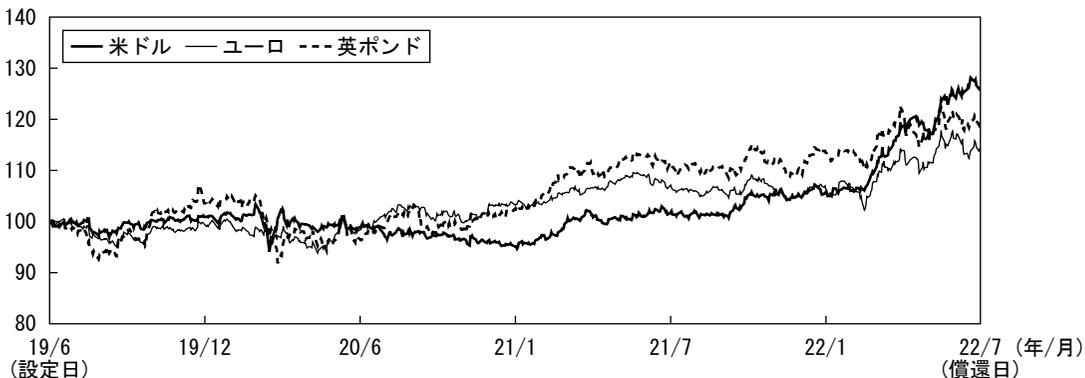
<世界株式市場>

設定当初は、米中通商協議の再開合意を受け、米中貿易摩擦が和らぐとの期待が高まったことなどを背景に、世界株式市場は上昇しました。2020年に入ると、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により、世界経済の減速懸念が高まったことや、原油価格が下落したことなどを背景に世界株式市場は下落しました。その後、新型コロナウイルスのワクチン開発に期待が高まったこと、欧米で部分的に経済活動を再開する動きが相次いだことから、世界株式市場は上昇基調で推移しました。2021年には米大統領にバイデン氏が就任し、米経済対策への期待が高まったことに加え、新型コロナウイルスのワクチンが実用化されたことなどから、世界株式市場は上昇しました。その後は、新型コロナウイルスに対する警戒感が根強く残っており世界株式市場は下落する場面もあったものの、バイデン米政権の追加経済対策に対する期待感の高まりや、FRB（米連邦準備制度理事会）によるテーパリング（量的緩和の縮小）の早期着手をめぐる懸念が後退したことなどから世界株式市場は上昇しました。しかし2022年に入ると、FOMC（米連邦公開市場委員会）において、早期利上げの可能性が示唆されたことや、ロシアがウクライナに対して軍事侵攻に踏み切ったことが嫌気され、世界株式市場は軟調に推移しました。

<外国為替市場>

外国為替市場では、円に対して米ドル、ユーロ、英ポンドが上昇しました。

○為替レート（対円）の推移



出所：一般社団法人投資信託協会

(注) 各通貨は期首を100として指数化しています。

<短期金融市場>

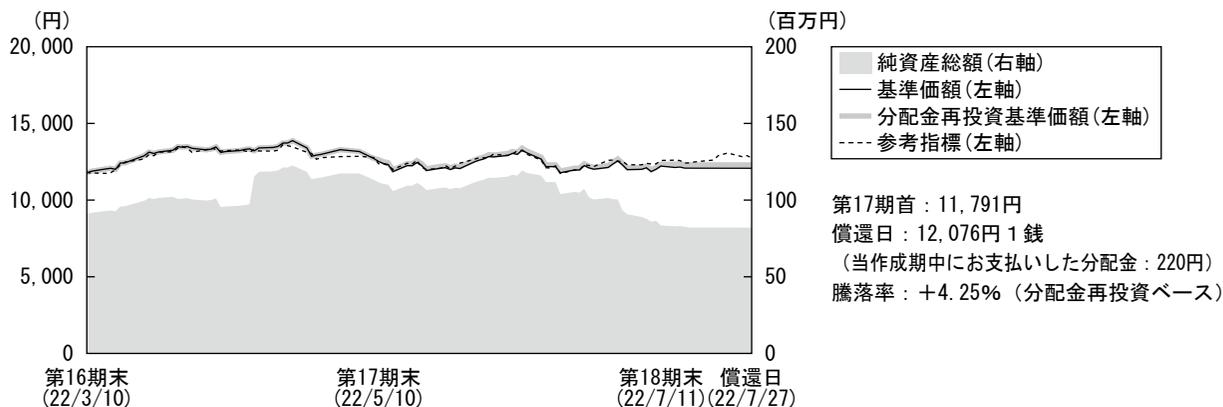
当期間において、米国T-Bill 1ヵ月は設定日の1.92%程度から0.13%程度まで下落しました。

【第1期～第16期】（2019年6月14日～2022年3月10日）

本ファンドは、ゴールドマン・サックス・グローバルCOREエクイティ・ポートフォリオおよびゴールドマン・サックスUS\$リキッド・リザーブズ・ファンドを主要投資対象とし、期を通じてゴールドマン・サックス・グローバルCOREエクイティ・ポートフォリオを概ね高位に組入れることで、日本を含む先進国の株式に投資することにより、信託財産の長期的な成長をめざして運用を行いました。この期間のパフォーマンスは+36.74%となりました。

■運用経過

◆基準価額等の推移について（2022年3月11日～2022年7月27日）



- (注1) 参考指標は、MSCIワールド・インデックス（円ベース）であり、投資対象資産の市場動向を説明する代表的な指数として記載しています。
- (注2) 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注3) 実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。
- (注4) 分配金再投資基準価額、参考指標は、当作成期（以下、「当期」といいます。）の期首の基準価額を起点として指数化しています。

◆基準価額の主な変動要因

○本ファンドの基準価額は、期首の11,791円から285円 1銭上昇し、償還日には12,076円 1銭となりました。

上昇要因

日本や香港における銘柄選択効果がプラス寄与となったことなどが、基準価額の上昇要因となりました。

下落要因

銘柄選択における投資テーマ「バリュー」と「モメンタム」がマイナス寄与となったことや、ドイツやオランダにおける銘柄選択効果がマイナス寄与となったことなどが、基準価額の下落要因となりました。また、分配金をお支払いしたことなども、基準価額の下落要因となりました。

◆組入れファンドの当期中の騰落率（分配金再投資、円換算ベース）

ファンド名	騰落率
ゴールドマン・サックス・グローバルCOREエクイティ・ポートフォリオ* ¹	5.16%
ゴールドマン・サックスUS\$リキッド・リザーブズ・ファンド* ²	18.64%

（注）純資産価格の騰落率は収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。当期中に保有していた期間中の騰落率を記載しています。

正式名称はそれぞれ以下の通りです。

- * 1 ルクセンブルク籍外国投資証券（米ドル建て）ゴールドマン・サックス・ファンズ S. I. C. A. V. - ゴールドマン・サックス・グローバルCOREエクイティ・ポートフォリオ IOシェアクラス (Cap MDist)
- * 2 アイルランド籍外国投資証券（米ドル建て）ゴールドマン・サックス・ファンズ・ピーエルシー-ゴールドマン・サックスUS\$リキッド・リザーブズ・ファンド X アクキュムレーション・クラス

◆投資環境について

＜世界株式市場＞

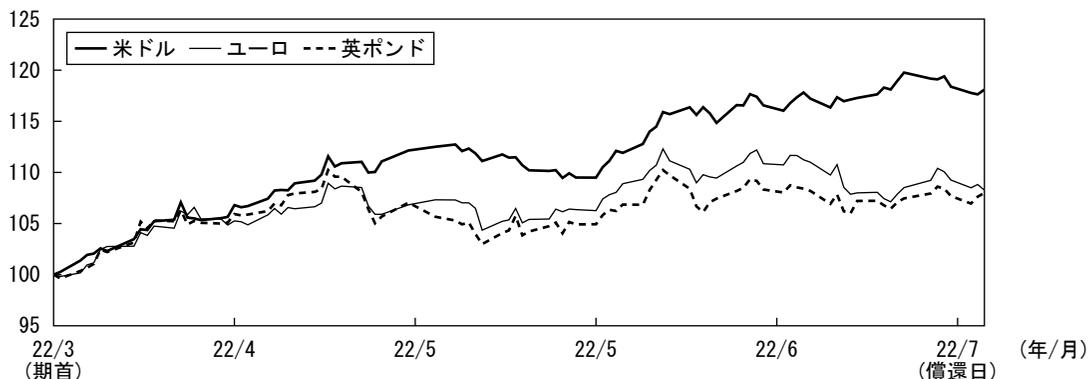
当期の世界株式市場は下落しました。

期初は、ロシアのウクライナ侵攻において両国が停戦協議を開始するとの動きが伝わり、それまで大きく下落していた銘柄群を中心に買い戻す動きがみられ、世界株式市場は上昇しました。その後、米金融当局がインフレ圧力を低下させる取り組みが最優先とし、利上げを進める一方でバランスシートの縮小を開始する意向を表明したことから、世界株式市場はグロース銘柄を中心に下落し、高止まりするインフレやリセッション（景気後退）への警戒感から株価は軟調に推移しました。期末は、5月の米消費者物価指数が大幅な上昇率を記録したことにより、米金融当局がさらに金融引き締めを行うとの見方が広がり、世界株式市場は下落しました。

＜外国為替市場＞

外国為替市場では、円に対して米ドル、ユーロ、英ポンドが上昇しました。

○為替レート（対円）の推移



出所：一般社団法人投資信託協会

（注）各通貨は期首を100として指数化しています。

<短期金融市場>

当期において、米国T-Bill 1 ヶ月は前期末の0.13%程度から1.80%程度まで上昇して償還日を迎えました。

◆ポートフォリオについて

<本ファンド>

本ファンドは、ゴールドマン・サックス・グローバルCOREエクイティ・ポートフォリオおよびゴールドマン・サックスUS\$リキッド・リザーブズ・ファンドを主要投資対象とし、期を通じてゴールドマン・サックス・グローバルCOREエクイティ・ポートフォリオを概ね高位に組入れることで、日本を含む先進国の株式に投資することにより、信託財産の長期的な成長をめざして運用を行いました。なお、当期中、満期償還に向けて現金化を行いました。

<ゴールドマン・サックス・グローバルCOREエクイティ・ポートフォリオ>

日本を含む先進国の株式を主な投資対象とし、ビッグデータやAI（人工知能）を活用したゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント独自開発の計量モデルを用い、多様な銘柄評価基準に基づいて幅広い銘柄に分散投資することにより、信託財産の長期的な成長をめざしました。

当運用では、最新のビッグデータや伝統的な市場・業績データ等をもとに、モメンタム（Momentum）・バリュー（Value）・収益性（Profitability）の投資テーマを通じた評価基準（MVPモデル）に基づき、投資魅力度を総合的に評価していますが、当期においては、国別配分効果と銘柄選択効果がともにマイナス寄与となりました。国別配分効果はドイツや英国など欧州の国・地域を中心にマイナス寄与となり、銘柄選択効果は、コミュニケーションサービスや情報技術のセクターでプラス寄

与となった一方、素材やヘルスケアのセクターでマイナス寄与となりました。また、当運用では、最新のビッグデータや伝統的な市場・業績データなどをもとに、モメンタム（Momentum）・バリュー（Value）・収益性（Profitability）の投資テーマを通じた評価基準（MVPモデル）に基づき、投資魅力度を総合的に評価していますが、当期は、「モメンタム」と「バリュー」がマイナス寄与になった一方、「収益性」はほぼ中立となりました。

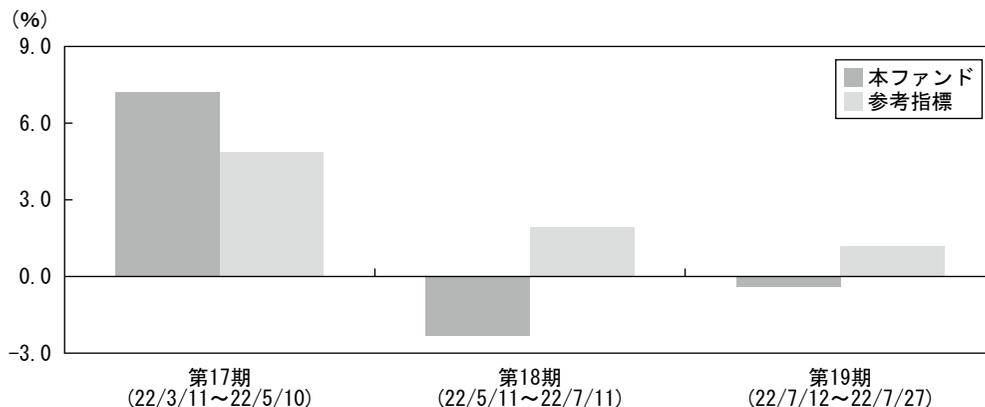
<ゴールドマン・サックスUS\$リキッド・リザーブズ・ファンド>

主として米ドル建ての短期金融市場証券に分散投資することにより、元本と流動性を確保しつつ、米ドルベースでの最大限の収益を得ることを目標として運用を行いました。

◆ベンチマークとの差異について

本ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。以下のグラフは、本ファンドの基準価額と参考指標の騰落率の対比です。

<当期の基準価額と参考指標の対比（騰落率）>



(注) 基準価額の騰落率は収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

当期の本ファンドのパフォーマンス（分配金再投資ベース）は、+4.25%となった一方、参考指標のパフォーマンスは+8.19%となりました。

◆分配金について

収益分配金（1万口当たり、税引前）については、分配方針および基準価額の水準などを勘案し、第17期は120円、第18期は100円としました。収益分配金に充てなかった収益については、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用を行いました。

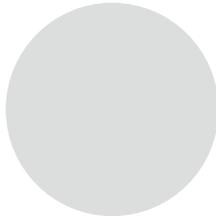
■本ファンドのデータ

◆本ファンドの組入資産の内容（2022年7月27日現在）

○組入れファンド

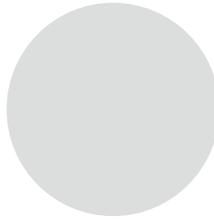
有価証券等の組入れはございません。

○資産別配分



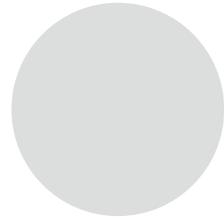
その他現金等
100.0%

○国別配分



日本
100.0%

○通貨別配分



日本円
100.0%

（注）上記の比率は全て本ファンドの純資産総額に対する割合です。

◆組入上位ファンドの概要

組入れはございません。

■ 1万口当たりの費用明細

項目	第17期～第19期		項目の概要
	2022年3月11日～2022年7月27日		
	金額	比率	
信託報酬 (投信会社)	66円 (32)	0.513% (0.251)	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 ファンドの運用、受託会社への指図、基準価額の算出、目論見書・運用報告書等の作成等の対価 購入後の情報提供、運用報告書等各种書類の送付、分配金・換金代金・償還金の支払い業務等の対価 ファンドの財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(販売会社)	(32)	(0.251)	
(受託会社)	(1)	(0.010)	
その他費用 (保管費用)	14 (9)	0.111 (0.068)	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数 海外資産等の海外保管銀行等に支払う保管・送金・受渡に係る費用 目論見書・運用報告書等の作成・印刷に係る費用、信託事務処理等に要するその他の諸費用
(その他)	(5)	(0.043)	
合計	80	0.624	
期中の平均基準価額は12,843円です。			

(注1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む。）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。但し、各項目の費用は、本ファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）が支払った費用を含みません。

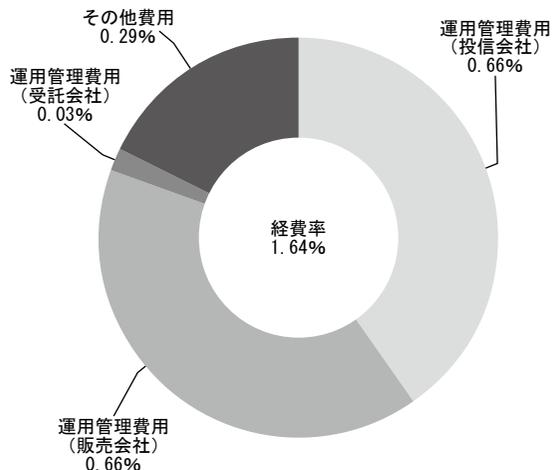
(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(参考情報)

■経費率（投資先ファンドの運用管理費用以外の費用を除く）

当作成対象期間の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料、有価証券取引税及び投資先ファンドの運用管理費用以外の費用を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した経費率（年率）は1.64%です。



経費率 (①+②)	1.64%
①このファンドの費用の比率	1.64%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	—%

(注1) ①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

(注4) 投資先ファンドとは、このファンドが実質的に組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注5) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注6) ①の費用と②の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注7) 投資先ファンドには運用管理費用以外の費用がある場合がありますが、上記には含まれておりません。

(注8) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

■売買及び取引の状況（2022年3月11日から2022年7月27日まで）

投資信託証券

決 算 期 銘 柄 名		第 17 期 ~		第 19 期	
		買 付		売 付	
		口 数	金 額	口 数	金 額
外	ゴールドマン・サックス・ファンズ S. I. C. A. V. -ゴールドマン・サックス・グローバルCOREエクイティ・ポートフォリオ IOシェアクラス (Cap MDist)	17,442	194	85,884	813
	ゴールドマン・サックス・ファンズ・ピーエルシー - ゴールドマン・サックスUS\$リキッド・リザーブズ・ファンド X アキュムレーション・クラス	0.464	5	2	27

(注) 金額は受渡し代金。

■利害関係人との取引状況等（2022年3月11日から2022年7月27日まで）

利害関係人との取引はありません。

(注) 利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

■組入資産の明細（2022年7月27日現在）

償還日における有価証券の組入れはありません。

■投資信託財産の構成

2022年7月27日現在

項 目	償 還 日	
	評 価 額	比 率
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	千円 82,125	% 100.0
投 資 信 託 財 産 総 額	82,125	100.0

■資産、負債、元本及び償還価額の状況

項 目	第 17 期 末	第 18 期 末	償 還 日
	2022年5月10日	2022年7月11日	2022年7月27日
(A) 資 産	112,884,288円	88,799,268円	82,125,694円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	3,060,455	1,867,209	82,125,694
投 資 証 券 (評 価 額)	109,823,833	80,108,560	—
未 収 入 金	—	6,823,499	—
(B) 負 債	1,341,220	5,931,117	55,593
未 払 収 入 金	15,604	45,035	—
未 払 収 益 分 配 金	1,069,081	683,361	—
未 払 解 約 金	—	4,943,821	—
未 払 信 託 報 酬	238,827	241,018	51,602
未 払 他 未 払 利 息	6	18	169
そ の 他 未 払 費 用	17,702	17,864	3,822
(C) 純 資 産 総 額 (A - B)	111,543,068	82,868,151	82,070,101
元 本	89,090,153	68,336,139	67,961,278
次 期 繰 越 損 益 金	22,452,915	14,532,012	—
償 還 差 益 金	—	—	14,108,823
(D) 受 益 権 総 口 数	89,090,153口	68,336,139口	67,961,278口
1 万 口 当 た り 基 準 償 還 価 額 (C/D)	12,520円	12,127円	—
1 万 口 当 た り 償 還 価 額 (C/D)	—	—	12,076円01銭

(注) 当作成期首元本額は76,993,784円、当作成期間（第17期～第19期）中において、追加設定元本額は21,185,039円、同解約元本額は30,217,545円です。

■損益の状況

項 目	第 17 期		第 18 期		第 19 期	
	自 2022年3月11日 至 2022年5月10日		自 2022年5月11日 至 2022年7月11日		自 2022年7月12日 至 2022年7月27日	
(A) 配 当 等 収 益	1,529,543円		1,311,312円		△ 2,163円	
受 取 配 当 金	1,520,018		2,529,931		—	
受 取 利 息	—		10,630		—	
支 払 利 息	9,525		△ 1,229,249		△ 2,163	
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	3,617,332		△ 3,124,106		△ 277,000	
売 買 益	11,082,859		6,452,346		299,712	
売 買 損	△ 7,465,527		△ 9,576,452		△ 576,712	
(C) 信 託 報 酬 等	△ 275,664		△ 308,841		△ 64,313	
(D) 当 期 損 益 金(A+B+C)	4,871,211		△ 2,121,635		△ 343,476	
(E) 前 期 繰 越 損 益 金	△ 3,493,931		227,593		△ 2,558,873	
(F) 追 加 信 託 差 損 益 金	22,144,716		17,109,415		17,011,172	
(配 当 等 相 当 額)	(26,260,736)		(20,364,815)		(20,262,449)	
(売 買 損 益 相 当 額)	(△ 4,116,020)		(△ 3,255,400)		(△ 3,251,277)	
(G) 計 (D+E+F)	23,521,996		15,215,373		—	
(H) 収 益 分 配 金	△ 1,069,081		△ 683,361		—	
次 期 繰 越 損 益 金(G+H)	22,452,915		14,532,012		—	
償 還 差 益 金(D+E+F+H)	—		—		14,108,823	
追 加 信 託 差 損 益 金	22,144,716		17,109,415		—	
(配 当 等 相 当 額)	(26,260,736)		(20,364,815)		(—)	
(売 買 損 益 相 当 額)	(△ 4,116,020)		(△ 3,255,400)		(—)	
分 配 準 備 積 立 金	6,993,871		5,483,788		—	
繰 越 損 益 金	△ 6,685,672		△ 8,061,191		—	

(注1) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注3) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差引いた差額分をいいます。

■投資信託財産運用総括表

信託期間	投資信託契約締結日	2019年6月14日			投資信託契約終了時の状況	
	投資信託契約終了日	2022年7月27日			資産総額	82,125,694円
区分	投資信託契約締結当初	投資信託契約終了時	差引増減または追加信託	負債総額	55,593円	
受益権口数	10,000,000口	67,961,278口	57,961,278口	純資産総額	82,070,101円	
				受益権口数	67,961,278口	
元本額	10,000,000円	67,961,278円	57,961,278円	1万口当たり償還金	12,076.01円	
毎計算期末の状況						
計算期	元本額	純資産総額	基準価額	1万口当たり分配金		
				金額	分配率	
第1期	14,154,429円	14,171,418円	10,012円	0円	0.0000%	
第2期	13,878,035	14,383,092	10,364	100	1.0000	
第3期	17,730,437	19,178,641	10,817	100	1.0000	
第4期	23,071,439	19,948,839	8,647	100	1.0000	
第5期	23,279,750	20,426,756	8,774	100	1.0000	
第6期	19,612,108	19,147,872	9,763	100	1.0000	
第7期	19,930,148	19,971,009	10,021	100	1.0000	
第8期	22,101,958	23,038,579	10,424	100	1.0000	
第9期	26,178,352	28,738,336	10,978	100	1.0000	
第10期	30,552,967	34,944,888	11,437	100	1.0000	
第11期	35,570,547	43,611,548	12,261	120	1.2000	
第12期	54,555,690	68,659,552	12,585	120	1.2000	
第13期	60,355,345	78,111,904	12,942	130	1.3000	
第14期	62,196,289	81,976,375	13,180	130	1.3000	
第15期	73,099,601	95,000,257	12,996	130	1.3000	
第16期	76,993,784	90,784,836	11,791	120	1.2000	
第17期	89,090,153	111,543,068	12,520	120	1.2000	
第18期	68,336,139	82,868,151	12,127	100	1.0000	

■分配金のお知らせ

決 算 期	第17期	第18期	第19期
1 万 口 当 たり 分 配 金	120円	100円	—

- ◇分配金には、課税扱いとなる普通分配金と、非課税扱いとなる元本払戻金（特別分配金）があります。
- ◇分配後の基準価額が個別元本と同額または上回る場合は、全額普通分配金となります。分配後の基準価額が個別元本を下回る場合は、下回る部分に相当する金額が元本払戻金（特別分配金）、残りの部分が普通分配金となります。
- ◇税率は、個人の受益者については原則20.315%（所得税15.315%、地方税5%）です。ただし、外国税額控除の適用となった場合には、軽減される場合があります。
- ◇税法が改正された場合等には、上記内容が変更になる場合もあります。

■分配原資の内訳

（単位：円・%、1万口当たり・税引前）

項 目	第 17 期	第 18 期	第 19 期
	2022年3月11日 ～2022年5月10日	2022年5月11日 ～2022年7月11日	2022年7月12日 ～2022年7月27日
当期分配金	120	100	—
（対基準価額比率）	0.949	0.818	—
当期の収益	120	100	—
当期の収益以外	—	—	—
翌期繰越分配対象額	3,732	3,782	—

- （注1）「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。
- （注2）円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税引前）に合致しない場合があります。
- （注3）当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

■償還金のお知らせ

1 万 口 当 たり 償 還 金	12,076円01銭
------------------	------------

- ◇個人の受益者については、償還金が個別元本を上回る場合、上回る部分が課税対象となります。
- ◇税率は、個人の受益者については原則20.315%（所得税15.315%、地方税5%）です。
- ◇税法が改正された場合等には、上記内容が変更になる場合もあります。